

会 議 録

| | |
|------------|--|
| 会議名 | 市長と区教育・健全育成会議委員代表との意見交換会 |
| 日 時 | 平成29年5月21日（日）14時30分～16時00分 |
| 会 場 | 市役所本館3階大会議室1・2 |
| 出席者 | 竹山修身市長、石井雅彦教育長 山中祥匡委員(堺区)、西川隆蔵委員(中区)、宇野佳子委員(東区)、 楠玲子委員(西区)、中村浩也委員(南区)、山野則子委員(北区)、 福永正博委員(美原区) |
| 発言者 | 発 言 内 容 |
| 事務局 | <p>会議を始める前に、事務局よりお願いがございます。 携帯電話をお持ちの方はお手数ですが電源をお切りいただくかマナーモードにして、通話をご遠慮いただくようお願いいたします。 また、会議録を作成する必要がありますので、事務局におきまして必要に応じて写真撮影、録音等をいたしますのでご了承ください。 次に、配付資料について確認させていただきます。 次第、配席図、区教育・健全育成会議 提言等について、堺市子どもの生活に関する実態調査結果報告書（概要版）になっております。 以上でございます。</p> |
| ■開会 事務局 | <p>それでは、ただいまから市長と区教育・健全育成会議委員代表との意見交換会を始めさせていただきます。 最初に、本日、出席されている方を紹介させていただきます。 竹山修身堺市長でございます。</p> |
| 竹山市長 | よろしく願いいたします。 |
| 事務局 | 石井雅彦教育長でございます。 |
| 石井教育長 | よろしく願いいたします。 |
| 事務局 | 区教育・健全育成会議委員代表、堺区の山中祥匡委員でございます。 |
| 山中委員 | よろしく願いいたします。 |
| 事務局 | 中区の西川隆蔵委員でございます。 |
| 西川委員 | よろしく願いいたします。 |
| 事務局 | 東区の宇野佳子委員でございます。 |
| 宇野委員 | よろしく願いいたします。 |
| 事務局 | 西区の楠玲子委員でございます。 |
| 楠委員 | よろしく願いいたします。 |
| 事務局 | 南区の中村浩也委員でございます。 |

| | |
|--------------|--|
| 中村委員 | よろしくお願ひいたします。 |
| 事務局 | 北区の山野則子委員でございます。 |
| 山野委員 | よろしくお願ひいたします。 |
| 事務局 | 美原区の福永正博委員でございます。 |
| 福永委員 | よろしくお願ひいたします。 |
| 事務局 | 本日、司会を務めさせていただきます、教育委員会事務局総務部の久保でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。 それでは、開会に際しまして、竹山市長からご挨拶がございます。 |
| ■挨拶 竹山市長 | <p>平成27年4月から区教育・健全育成会議を設置し、皆さんに区教健の委員をお願いしております。そして、区ごとに特色のある地域と学校と行政をどう結びつけていくかという施策について、提言をいただいているところでございます。設置から2年たって、市長や教育長と、委員の皆さんとのコミュニケーションがないといけないのではないか、ぜひとも一緒にお話ししたいと考え、こういう場を設定しました。</p> <p>区教健は、堺の子どもたちを地域の中で健全に育成していくということを実践する場であると思います。地域でそれぞれの教育課題を解決できるように考えていただきたいと思います。</p> <p>今日は、全国の政令指定都市の保健医の協議会が行われており、医師、歯科医師、薬剤師の方が「子どもたちの健康をどうするか」ということをキーワードに議論されておりました。それは今、区教健で議論していただいている課題そのものだと思っております。</p> <p>子どもが元気で知育・徳育・体育を伸ばしていける堺市にしたいと思っておりますので、どうかよろしくご教授お願ひいたします。</p> |
| ■意見交換 事務局 | <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、早速、意見交換会に入りたいと思います。</p> <p>各区の教育・健全育成会議では、平成27年度から共通の審議事項「家庭・地域における教育・健全育成に向けた取組」について、審議の上、提言をいただいております。また、各区では、その提言をもとに事業を実施しているところでございます。</p> <p>本日は、まず、配付資料の「各区教育・健全育成会議 提言等について」に基づき、各区の審議や取組の内容等についてのご報告を各区3分以内で順次お願ひします。その後、ご報告いただいた内容などを受けまして、ご意見をいただく形で進めていきたいと思ひます。</p> <p>それでは、最初に堺区の山中委員からお願ひします。</p> |
| 山中委員 | <p>堺区では、大学教授、大学講師、臨床心理士、弁護士、堺市こども会育成協議会会長といったメンバーで、平成27年4月27日より、毎月1回会議を行い、親支援、地域支援について議論してきました。</p> <p>子どもの健全育成を図るには、まず親や地域を支援していくことが大事では</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>ないかということから、どんなことができるだろうかと、いろいろと検討いたしました。また、検討だけではなくて、いろんなところへ視察に行きました。平成27年11月には、こども会の活動として、キックベースボールの大会、将棋オセロ大会を視察し、役員の方々がどんな活動をされているのかを見せていただきました。</p> <p>そういった中から、保護者の方に教育について考えてもらう時間が必要であろうということで、平成28年8月に2回、大阪ガスッキングスクール堺で、土佐いく子委員が中心となり、教育講演会を実施しました。また、教育講演会だけだと保護者の方も参加しにくいですので、子どもたちも一緒に参加できるように親子クッキング教室であるとか、子ども工作教室であるとかをイベントミックスとして開催しました。講演会には、多数の応募があり、2日間で約80名に参加していただきました。満足度は講演会で97%、イベントは料理教室体験で97%、子ども工作教室で63%と、いずれも高い評価を得ております。</p> <p>また、杉本厚夫会長が関西大学で「社会的親育成」をテーマに講演しました。アンケートからは、講演会についての満足度100%とこちらも非常に高い満足度をいただいております。</p> <p>同時に、親子遊びや子ども学習教室をイベントミックスで開催しております。ここでは、親が自分の子どもではなく参加している別の子ともと一緒に遊び、いわゆる「社会的親」の体験をしてもらうということを行っております。</p> <p>また、地域でいろんな支援をしていただく方を養成しようと、私と堺区で教育相談を担当している臨床心理士の梅川氏と一緒に、親支援コーディネーター養成講座を平成29年1月から連続5回で開催しました。初級30名募集としたところ、60名から80名ぐらいの応募がありまして、そのうち約35名の方に講座に参加していただきました。今回参加できなかった方は、平成29年度に開催する講座に優先的に参加していただきます。講座では、聞く技術や、地域でのトラブル、学校でのトラブルをどう解決していくのかということを中心にメディエーションという方法を使い、お話を聞きながら一緒に解決していく体験をしていただきました。平成29年度は初級に加え、後半には中級コースを計画しております。また、中級コースに参加された方の中から絞り込んで、上級コースということで、地域のコーディネーターを実践的に育成し、そういう方が地域でどう活動されるのかをしっかりと見守っていかうとしております。</p> <p>平成29年度は、同じメンバー5人でサブテーマ「子どもの居場所づくりのあり方」について議論しております。単なる場所を提供するというだけではなくて、いろんな大人が子どもと関わって、子どもがいろんな大人に支えられ、見守られながら成長していくといったことをめざせればと議論しております。</p> |
| 事務局 | <p>ありがとうございました。 それでは、中区の西川委員、お願いします。</p> |
| 西川委員 | <p>中区では、平成27年度から「地域とのつながりによる青少年の健全育成」について審議依頼を受け、平成27年度はおおむね現状の認識、いわゆるアセスメント等を行いながら平成28年度に提案というふうにつなげてまいりました。</p> <p>主な提言内容は4つあり、この4つの提案について、それぞれ具体的な取組も進めておりますので、簡単に説明させていただきます。</p> <p>まず1つ目は、文化系クラブの校外活動の支援と地域間交流の促進についてです。運動系クラブに比べますと文化系クラブは発表する場が少ないこともあり、地域で中学校の文化系クラブの発表の場を提供することを通して、子ども</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>たちの自己達成感、自己有能感を育みながら、地域とのつながりを促すような仕組みづくりができないかという提案でございます。これを受け提言に基づく取組として、平成28年度は、3つの中学校の音楽系のクラブ、ダンス部が区内の高齢者施設、あるいは地域の文化祭で演奏やダンスを披露し、施設の高齢者の方や地域の方と交流を行いました。</p> <p>次に2つ目、子どもの読書環境の充実についてです。堺市は「家での7つのやくそく」という提唱をしています。その中でも読書の習慣づけというのは、子どもの学習習慣の定着につながる大切な習慣であり、実際の調査データで裏づけられております。そこで、中区では読書の拠点づくりをしようじゃないか、そして読書の拠点づくりから子どもたちの居場所づくりへつながるような仕組みづくりをしよう、同時に、そういった仕組みを支える担い手を育てていかなければならないと提言させていただきました。ここから具体的な取組として、小学校の読書ボランティア団体が実施している「絵本の広場」などの催しの支援や、学校の放課後ルームでの参加型読み聞かせという新しいスタイルの読み聞かせ事業を展開してまいりました。</p> <p>3つ目、地域がともにつながり子育てに参加する場づくりについてです。堺市には歴史的な資産というものがたくさんございます。こういった資産を有効に利用しながら子どもの子育てにつなげていくという仕組みづくりとして、地域の歴史に詳しい方を「歴史マイスター」として顕彰していくことを考えました。また、地域の方が子どもの健全育成について課題や解決策を考えて、具体的に実施するような仕組みづくりというものを提言しました。平成28年度は地元の歴史に詳しい方の協力を得まして、小学校3年生以上の子どもが活用できる、まちの探検マップ、それからまちの歴史マップを作成しました。</p> <p>それから、宮園校区では、地域の方が主体となって子どもの朝食会、また、朝食を食べるだけではなくて同時に歯を磨く指導や図書を読み聞かせを組み込んだ「子どもの生活習慣応援事業」を実施いたしました。このほか、中区内外の子どもたちが参加し、子どもがまちを主体的につくる「ミニ☆大阪事業」を実施いたしました。</p> <p>4つ目、中区の小中学校との連携を深める取組についてです。これは私ども区教健のメンバーと、中区の小中学校の校長先生との意見交換会を開き、そこで子どもの健全育成についての認識の共有や意見交換ができる仕組みづくりについて提言いたしました。平成28年度は、スクールロイヤーの先生をお招きし、各学校の抱える問題を中心に意見交換をいたしました。</p> <p>平成29年度の審議事項には読書環境の充実を取り上げています。平成28年度、中区選出の市議会議員さんとの意見交換会を実施しました。その際、ブックスタート事業の充実ということで小学生に向けたセカンドブック、それから中学生へのサードブック事業などの助言をいただきました。平成29年度はそういった助言に基づいて、事業を展開していこうと考えております。具体的な計画として読書コンクールという形で何かできないかと考えております。</p> |
| 事務局 | <p>どうもありがとうございました。</p> |
| | <p>それでは、東区の宇野委員、よろしく申し上げます。</p> |
| 宇野委員 | <p>区教健の設置に伴い、区に相談窓口ができました。その相談窓口へおじいさんから孫のスマートフォン・携帯電話に関するトラブルの相談があり、また、子育て広場でスマートフォンを見ながら子どもの顔を見ないで哺乳瓶でミルクをやっている保護者がいるということを知り、東区はスマートフォンを切り口に審議しようという取り組みました。審議していく中で1番大切なのは、ルールを決めることだということになりました。スマホを子どもに持たせ、お金を払う</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>のは保護者です。つまり保護者に子どもとのルールや約束についてどう訴えかけるかです。小中学校では子どもたちがネットいじめ防止授業を受けているということで、私ども委員も研修させていただきました。また、スマートフォンの使用が子どもの睡眠や健康にどういう影響があるか、「みんなく」に取り組んでいる三原台中学校の木田先生に来ていただいて、お話を聞きました。そういった中で、子どもにスマートフォンを持たせないのではなくて、どんなルールを決めて渡すかということが大事だと考えました。そこで、平成28年度は、小学校4年生以上の保護者に対し、2学期末の懇談会に間に合うように、家族でスマートフォンについてのルールを決めてもらおうというリーフレットをつくりました。今後、予算が続く限り東区でお願いしたいと思っております。</p> <p>もう一つ、東地域子育て支援センター、東区子育て支援課、東保健センター、東区企画総務課の4つが協力して、乳幼児の保護者に、スマートフォンに気を取られながら子育てしていないか、子どものサインを見逃していないか、保護者も子どももスマートフォンを見ていて危なかったということはないか、といった視点で注意喚起するリーフレットをつくりました。そして「僕はママのスマホになりたい」という絵本を区役所やみんなの子育て広場や、図書館に置いていただいています。子どもが小さいときから、保護者がスマートフォンに対してどう取り組むか、子どもが小学校、中学校へ上がっていったときに、どういう約束をしてスマートフォンを持たせるか考えてもらい、ルールを守るといことは大事だと保護者に思ってもらえるよう、力を入れて取り組んでまいりました。なかなか難しいですが、しなければいけないことだと思っています。</p> <p>区教健のよかったところは、こういう1つのリーフレットをつくるにしても、区役所の中のさまざまな課が東区の子どもの子育てをどうするか考え、教育に関心を持って協力して取り組むようになったところだと思っています。東区は特にワンフロアで、お互いの空気が伝わってきます。関係課が学校へ行って校長先生からお話を聞いたり、また、意見交換会を開いたりしたことでお互いに信頼関係が生まれたように思います。何をすることも人間関係が大切なので、これからも東区はこの辺りを大切にしていきたいと思っております。また、平成29年度は「早寝、早起き、朝ごはん」について具体的に取り組んでいこうと計画しております。</p> |
| 事務局 | <p>ありがとうございました。 それでは、西区の楠委員、よろしく申し上げます。</p> |
| 楠委員 | <p>西区は、昔ながらの人々の結びつきが大変強い区でございまして、例えばこども会の加入率も、私どもの子どもが小さいときは大変高かったと思います。ところが、西区教育・健全育成会議で現在の実態を聞きましたところ、堺市の中でもこども会加入率が低いということでびっくりしたところでございます。その原因は何かということも、平成27年度に話し合い、課題について議論しました。地域を見回しますと、例えば大鳥大社の祭り、浜寺ローズカーニバルなど、区の中でそれぞれの地域団体や連合自治会がすばらしい取組をしているけれども、それぞれがばらばらでやっていて、なかなかつながっていません。だから、子どもたちのために、これらをつなげることが私たち西区教育・健全育成会議委員の役割ではないか、じゃあどうしてつないでいくかということ議論してまいりました。例えば、西区中学校合同演奏会や西区サイエンスフェスティバルには多くの方が来られますが、PTA協議会、こども会の会議には保護者の方はあまり来られません。ここをどうするかということで、家庭と地域</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>のきずなづくりをテーマに話し合いました。これらのよい点を結びつける方法を議論してまいりました。</p> <p>また、地域に昔から住んでいる方と新しく建設されたマンションに入ってきた方とを結びつけること、課題を抱えている家庭で孤立している子どもや悩みながら孤立してしまっている保護者を区でどう応援していくかということも議論し、区役所の教育相談窓口をこれらの地域で開設してはどうかということで、平成28年度に2校区で実施してみました。一生懸命PRしましたが、うまく時間帯が合わなかったというようなこともあり、いい結果とは言いきれませんでした。ですが、諦めることなく、今後につなげていかなければいけないと考えております。今は、毎月1回、ある特定の校区で福祉委員のメンバーを中心に地域の保護者の方を呼んで「子育てカフェ」をやろう、放課後の子どもの居場所づくりをしようとしております。</p> <p>平成29年度は保護者の教育力を高めていこうということで、1回だけではなくて、地域の継続的な取組の中で、保護者とのつながりをつくっていったり、こども会、PTA活動、連合自治会、子育て支援活動といった地域活動をつなげて子どもたちの教育・健全育成へとつなげていければと思っております。新たな事業をするのではなくて、今まであった事業をいかに結びつけていくか、つなげていくか、そして地域力をアップさせていくか、これが西区の課題であって、これに取り組まなければいけないと思っております。1つの校区で力を合わせてモデルをつくって、他の校区へも広げていこうということで、連合自治会の役員さんたちと協力し、活動しようとしております。</p> <p>そして、平成28年度の取組をふまえて、広報が足りないのではないか、一生懸命やっているけど「こんなところでこういうことをやっているよ。みんなも行こうよ」とPRする取組もしなきゃいけないのではないかということで、区役所で広報活動のチラシを作成しました。</p> <p>また、区の小中学校や、区民評議会と連携しようということで、代表の校長先生や区民評議会の会長に来ていただきまして、私たち委員との意見交換会をいたしました。また、私自身も区民評議会の傍聴に行かせていただきました。今後も連携を進めていきたいと考えております。そして、主任児童委員さんとのつながり、子育てネットワークのつながりも大事にしたいと思っております。</p> <p>「つないで、つないで、つながって」を合い言葉に、地域の宝である子どもたちを地域で育てていけるようなつながりづくりをめざして取り組んでいきたいというのが、西区の夢でございます。</p> |
| 事務局 | <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、南区の中村委員、よろしく申し上げます。</p> |
| 中村委員 | <p>南区は「健康的な生活習慣と体力向上に向けて」を平成28年度のサブテーマに話を進めてきました。委員はスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、元PTA会長、就学前教育の研究者、スポーツ科学・健康科学、発育・発達の研究者の計5名で議論を深めてまいりました。議論の方向性については、さまざまな委員のバックグラウンドがあり、個別の思いがあった中で、科学的根拠、エビデンスに基づいて施策の方向性を見きわめていこうという方向性で一致してきて、南区では、子どもの生活習慣や体力、このテーマの問題は一体どこにあるのかということで、広く調査をいたしました。</p> <p>この調査は、かなり大規模に行いまして、平成28年11月15日から12月16日まで、平成28年9月末時点で南区に在住の5歳から15歳の子どもを持つ世帯から、年齢比を考慮して4,000世帯を対象に無作為抽出しアン</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>ケートを実施いたしました。回収率は44.3%と非常に高い数字で、南区の子育て世帯の子どもに対する意識の高さが、このアンケートの回収から見えてきました。</p> <p>調査内容として南区では、家族のありよう、家族の団らんとか休息、安らぎ、家庭がそういった場になっているのかといったところを中核として、比較調査をしました。例えば「何か困ったとき、家族はあなたの助けになりますか」「あなたは家族と話し合ったり苦勞を分け合うことに満足していますか」といった5項目を点数化して、20点満点で比較調査を行いました。その結果、南区の家族で20点満点の世帯が36.3%と、比較的高い傾向にありました。世帯の点数によって、どのような生活習慣と体力に問題があったのかということを見ていきますと、実は子どもの生活習慣は、早寝早起きにしろ、朝食の状況にせよ、実は家族のありよう、そして親そのものの意識にかなり依存しているという、そういう傾向がつかめてきました。子どもの健康の問題、あるいは生活習慣、体力の問題というのは、子どもに向きがちですけれども、実際は子どもを取り巻く生活環境にかなり委ねられている部分があるということに改めて南区では確認しております。また、「子どもの力を引き出す運動習慣について」につきましても、運動習慣が実は親の運動習慣に依存しているということもはっきりしてきました。</p> <p>あわせて、子どもの体力の二極化というのが全国的にも問題視されていますけれども、体力の問題は、学校以外の夏休みとか冬休みに起こっています。つまり、学校に行っているときは、体力は上がっているけれども、学校が休みになったときに体力が落ちているということがわかってきて、要は家庭、地域でもう一度、子どもの体力について考え直さなきゃいけないということを確認しております。</p> <p>また、「他者を尊重する主体性について」も、家族のありようと、子どもが自分のことが好きかどうかという自己肯定感を見てみますと、家族がうまく機能しているところは自己肯定感が高いという傾向も出てきております。家族をどう捉えていくのかといったことも、今後の大きな方向性になるだろうということで共通認識したところでございます。つまり、子どもの生活習慣とか体力というのは、親の生活習慣とか運動習慣と相関があるということです。</p> <p>それから、健康を考えると、栄養、運動、睡眠ということがありますがけれども、これの習慣は、実は親が本当にできているのかという問題を中核にしないと、子どもばかりに目を向けては、なかなかうまくいかないのではないかとという視点も出てまいりました。</p> <p>平成29年度は、子どもの問題を考える上で、あえて「保護者向けの7つのやくそく」のような、保護者向けに啓発できるようなことが必要であろうとしております。これは、できれば心に響くわかりやすい言葉で標語として設定できないかということで、取り組む予定でございます。また、睡眠につきましても、南区の三原台中学校の先生が「みんなく」という非常に特色ある取組をされているということで、この「みんなく」の推進ということも、もう少し掘り下げてやっていけないかということも審議していきたいと考えております。子どものために親自身が健康をどう考えるか、そして実践力のある取組をどうすればいいのか、こういったことをテーマにして進めていきたいと考えております。</p> |
| 事務局 | <p>ありがとうございました。 それでは、北区の山野委員、よろしく申し上げます。</p> |
| 山野委員 | <p>北区は、元保育園の園長先生、元教師で幼稚園副園長、発達心理学の研究</p> |

者、この方は堺市の5歳児相談に取り組んでくださっている先生です。そして、生徒指導を長くされてきた元教師で大学籍の先生、それと私、児童福祉の研究者です。そういうメンバーが委員でございます。

堺市は、素晴らしい取組をたくさんされています。例えばマイスタディも全校でやっておられます。私も国の中教審の委員や、内閣府の子どもの貧困対策の委員をさせていただいて、各地に出向いたりお聞きする機会が多くございます。コミュニティスクールも見せていただく機会があります。そんな中で、このマイスタディという全校で学習支援を地域と共同しながらされているところはなくて、すごいなと思っています。スクールソーシャルワーカーも堺市は国でプレゼンをされるぐらい注目されています。

なかでも北区は特に子育てに力を入れておられますが、そんな中で、実はなかなか各取組が現場でつながっていないということ、北区の委員の皆さんも感じておられていて、各連絡会とか連携会議とか、それぞれがどれぐらい、どうつながっているのかということ、調べさせていただきました。そうすると、就学前は結構いろいろつながっていますが、就学後はつながっていないということがエビデンスから明確になり、地域がつながる仕組みづくりと就学後の子どもへの支援の充実を提言しました。

校区の中の校長先生に来ていただいて、どんなふうにマイスタディを実践されているかや、コミュニティスクールについてお話を聞いたり、地域の社会福祉協議会でやっておられることをお聞きしたりしました。地域とつなげるためには、ボランティアの地域人材の方がすごく大切に、北区だけで30団体ぐらいのボランティアが活動していることもわかりました。でもそのことは知られていません。例えば私はスクールソーシャルワークの専門家で堺市のスーパーバイザーをしていますけれど、堺市のスクールソーシャルワーカーは、ボランティアがどこでどう動いているかは知らないです。そこがもっとつながって、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーでないところにも、保護者の方がもっと簡単に相談ができて簡単にすっきりすると、子どもに向きあえる力にできるんじゃないかと議論してきました。

それでまず、平成28年度は、北区のどこで何をやっているのか、ボランティアがどのくらいいるのかについてリーフレットを作成し、学校や活動団体に全部お配りして、どこでどうつながったらいいのかということ、見える化しました。

それから、子どもの居場所ということで、モデル的に子どもの居場所をつくりました。これは、地域で気になる子どもがどう居場所につながって、そのうち何%がどうなっていくのかということ、リサーチするためにモデル的に実施しました。この子どもの居場所も、残念ながら北区で1つとなると、その校区の小学生しか来れないんです。小学校の先生は「校区外に出てはいけません」と指導しているので、当然これは校区に1つつくらないといけないということが明確になりました。もう1つは、校区で居場所を開催し、その小学校の子どもが何%ぐらい来たかということ14.7%ぐらいです。この14.7%というのが多いととるのか少ないととるのかです。学校内につくって、先生が「ちょっと一緒に隣へ行こうか」と連れていくというような仕組みじゃないと、なかなか気軽に子どもたちは参加できないんじゃないかということが明らかになったと思います。イギリスでは各学校で朝食サービスや居場所などをやっているのですが、そういうサービスが学校で提供できるような、そんなことをめざしたいねということを含みながら、まずは北区のプラットフォーム化を考えましょうということで議論を進めています。

平成29年度取組としては、子どもの居場所のモデル事業を北区の各校区に広めていくということ、そこでの検証をしていくということ、まず、北区ブ

| | |
|------|--|
| 事務局 | <p>ラットホームをつくって、それが各学校プラットホームに移行していくというか、区にモデル的につくったものが各学校に広がっていけばいいなというふうに提言させていただいているところでございます。</p> <p>このほか「7つのやくそく」をアプリにして、もっと身近に配っていききたいねという話もしてまいりました。</p> |
| 福永委員 | <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、最後に美原区の福永委員、よろしく申し上げます。</p> <p>美原区のテーマは「“みはらっ子”の健全育成をめざした保護者・地域・学校のつながり支援」です。そして、具体的な目標としては、子どもの生活習慣、家庭学習・読書習慣の形成、定着で、まず美原区の子どもの実態を知ろうということで、教育委員会が全市の子どもの対象にアンケートをとられた結果が役に立ちました。</p> <p>美原区の子どもたちは携帯電話とかスマートフォンの使用時間が長い、学校の授業時間以外での勉強時間が少ない、読書を行う時間が少ない、という結果で、子どもたちの学力はどうかというのは当然予想されます。また、そのアンケートをさらに見ますと、保護者が働いて1人で子育てされている、頑張っておられる家庭が多く、そこの子どもたちの学力について、少しやっぱり課題があるということが見えてきました。</p> <p>そこで、どこから攻めていくかということで、まず学校に入ろうと美原区の校園長会に参加しました。美原区は8校園しかないので、校園長会に委員や私も行って、この区教健について説明してもらいました。これは、市長が都市内分権の二本柱の1つと位置づけられている区教健についてご理解いただきたいと思い行ったもので、具体的には8校園を美原区役所の方と回り、校長先生に学校現場や子ども様子を聞き図書室を見せてもらいました。学校によってかなり差があります。</p> <p>そして、「早寝、早起き、朝ごはん」の生活習慣や百ます計算で著名な陰山先生に講演してもらい、保護者に来てもらおうということで、PTAの方に集まりやすい曜日や時間を聞いて講演会を設定しました。</p> <p>同時に、関係機関、特に保健センターの皆さんに力を借りてプロジェクトを組んで、あっちこっちに啓発のぼりを設置して啓発に取り組みました。</p> <p>そして、学力に直結するのは、家で勉強する習慣ということで、家庭学習ノートを美原区の小中学生全員に2冊ずつ配りました。このときは各学校の要望を聞いてノートを用意しました。そしてできたら評価してあげてくださいとお願いしました。評価して褒めてあげるとということで、ハニワ課長とハニワちゃんシールをお渡しして、よく頑張ったという担任の先生の判断で貼っていくことをお願いしました。課題なのは、家でお父さんやお母さんが見てくれる家庭は大丈夫ですが、見てもらえない家庭があるので、今後は、ノートにサインを入れてもらうとか、何か一言書いてもらうような取組を無理のない形で進めていければと思っています。</p> <p>読書につきましても、美原区の図書館の団体貸し出しを使いながら、学校の先生に、美原区の図書館司書の方との意見交換を美原区役所の方に設定してもらって、図書館にどんな本があるか、学校の子どもたちはどんな本を要望しているかとかを聞き、調整して、区の図書館もうまく使っていこうということで今取り組んでおります。</p> <p>学校現場には行けましたが、今後は先ほど皆さんも言っておられたように、自治会とか、区PTA、こども会に私たちも出かけていって、こういう活動を知ってもらって、そして一緒にできることは何か、私たちがお手伝いできること</p> |

| | |
|-------|--|
| 事務局 | <p>は何かについて考えていきたいと思っています。</p> <p>どうもありがとうございました。 ただいまのご報告にご意見、ご感想等ございませんでしょうか。</p> |
| 竹山市長 | <p>私はいつも「おせっかいなおっちゃんやおばちゃんになって」「地域の中でいろいろな子どもがおったら声をかけたり、いろいろと怒ることも必要やで」ということを言っていますが、地域で人と関わる中で事件が起きていることもあり、非常に難しい社会になってきたなと思います。私も単純に「おせっかい」と言ってもらへん、よくTPOを見て対応せんとあかんなと思います。その辺りについても何かご意見があったら教えていただきたいです。</p> |
| 事務局 | <p>それでは、皆さんの報告もふまえて、本日のテーマであります「子どもの生活習慣や家庭における学習習慣の確立」について意見交換をお願いしたいと思います。</p> <p>先日、こども青少年局から、子どもの生活に関する実態調査の結果についても発表されたところです。これまでの審議や取組、また、これからの審議に向けての思いなども含めまして、皆様よろしくお願いします。</p> |
| 石井教育長 | <p>今、7つの区からの報告を聞かせていただいて、共通するかと思ったのは、「つながり」「きずな」「連携」といった、人と人との連携、つながりにかわることが非常に多かったことです。</p> <p>「第2期未来をつくる堺教育プラン」のめざす子ども像の1番は「子どもが自分のよさを知り、人とつながり協働する」ということで、よさを知り人とつながることが一番大事だとしています。</p> <p>家庭レベルのつながりから、家庭と地域と学校のつながりなど、さまざまなつながりがありますが、それらを充実させていくということが基本の方向性だろうと思っています。</p> <p>なぜかと申しますと、例えば学力でいいますと、大阪大学の志水先生などの研究では、戦後の都道府県の学力の変遷を見ていくと、つながりが維持されているところは子どもたちの学力が継続されているけれど、つながりが低くなっているところは学力が低下しているというようなことがあります。</p> <p>また、生徒指導上、非行の問題なども考えていくと、つながりの多い子どもたちは軽率な行動をとりにくく、非行に走りにくいです。そんなことから、自分自身のよさを知って、つながっていくということは、子どもたちが能力を伸ばしていく上で非常に重要だということで、施策の基本に置きたいと思っております。</p> <p>実は先日、NHKの番組で知ったのですが、染色体レベルで「テロメア」というのがあって、テロメアがいつまでも長い人は老化しにくく、すぐ短くなる人は老化してしまうそうですが、人と人とのつながりがある人は、テロメアが短くなりにくく老化が遅くて、つながりが弱く、特に孤立している状況にあると、一気に老化が進んでしまうということがあるそうです。さっき、私は学力や生徒指導のレベルで言いましたが、生物学的レベルでも、人というのはつながりを持っておくことが非常に重要なのだと思いました。今日も、皆さんがさまざまなレベルで人と人をつなげていこうということを施策の方針とされているのは非常に大事だと思います。これを具体的にどうしていくのかということ、これから各区で、また教育委員会としても進めていきたいと思っておりますのでございます。</p> |

| | |
|-------------|--|
| <p>山野委員</p> | <p>今、市長がおっしゃった「おせっかい」ということと、教育長がおっしゃった「つながり」というところで、子どもが常にいろんな人と接していて、いろんな人が子どもを見守るのが当たり前という状態をどうやってつくるかということだと思います。</p> <p>今回の子どもの生活に関する実態調査の結果、例えば母子世帯ほど非正規雇用で収入が低いです。また、困窮している家庭ほど孤立しています。子どもの貧困というのは、3つのキャピタルの欠如と言われていて、経済的資本の欠如と、ソーシャルキャピタル、つまり社会のつながりの欠如と、ヒューマンキャピタル、つまり人間のもとも持っている力の欠如、この3つの欠如の重なりになるので、ここも意識しながら考えていく必要があるんじゃないかと思いました。</p> <p>さっきイギリスの例を挙げましたけれど、教師は忙しいので、教師がやっているのではないのです。学校の空き教室で親の就労支援や朝食サービスをやっています。空き教室にいろんな居場所があって、学校の中がモールのようになっているわけです。そうすると、いろんな大人と交流して、子どもたちが力をつけていきますよね。今、子どもが放課後1人であるというのが、困窮度に関係なく、20%ぐらいいます。放課後、家に帰ってからずっと1人であることが学力とかに関係してくると思うのですが、多様な人と接する機会があることが必要だと思います。山口県では、校区で高校生が中学生を教え、中学生が小学生を教え、小学生が保育ボランティアに行くという仕組みをつくっています。そんなふうに絶えず大人、他者と接するということが学力向上や貧困の連鎖をとっていくことにつながると思いますし、こういったことはどこでやれるかということ、私は地域人材を活用した、全ての子どもたちに身近な学校という場ではないかと思います。</p> |
| <p>楠委員</p> | <p>今、山野先生が学校でとおっしゃった内容を、西区は地域でやってみようと思っております。西区の区教健委員は地域の福祉や人権擁護にかかわっている者、自治会、保護司、警察OB、臨床心理士といった地域に近いところにいるメンバーがそろっていますので、地域でモデル的にやろうとしております。</p> <p>放課後等の健全育成事業としては、のびのびルームなどがありますが、そこからはみ出してしまった子どもや、そこへ入っていない子どももいます。また、学校の中で学力を上げようと頑張っているけれど、なかなか学力が上がらない子どももいます。そんな子どもを私たち地域の者が寄って、地域で子どもを育てるところに私たちの活動意義があるのではないかということで、自治会長さんたちも含めながら福祉委員のメンバーや地域のボランティアが集まって、地域会館で週1回、放課後に子どもを集めて、宿題応援活動や子ども食堂をやろう、そしてそこに保護者も来てもらって、一緒になってやろうと考えております。地域でモデルをつくれるよう取り組んでみようとしているところでございます。</p> <p>「つながる」ということについてですが、私は保護司もやっておりますが、保護司も罪を犯した子どもを更生させるだけでなく、予防法も考えていて、例えば南宗寺で夏休み親子茶会をやります。親子で来てもらって、堺の特徴であるお茶席を通しながら、親も育てていきます。また、いろんなイベントの中で親子や大人と子どもをつなげていこうということで、例えば地域で活動している私たちを学校で紹介してもらおう場をつくって「あのおばちゃんたちの話もちょっと聞いてみようか」というようなおせっかいができればと思っております。</p> <p>それぞれのやり方があって、山野先生がおっしゃったのも1つだと思いますが、私たちは、地域でちょっとやってみようと思っております。</p> |

| | |
|-------------|--|
| <p>西川委員</p> | <p>貧困家庭の子どもというのは、学習機会が乏しかったりもしますが、子どもの生活に関する実態調査結果についていえば、例えば「自分に対する自信がある」「自分の将来の夢や目標がある」「将来のために、今、頑張りたいと思う」と答えている子どもの割合が高く、すごいと思うのは「努力すればむくわれる」というところで、これは60%程度の子どもが「そう思う」と答えているんですね。この調査結果が、どの程度の信頼性が置けるのかは考えないといけない部分もありますけれども、6割ぐらいの子どもがこういう感覚を持っているというのは、堺市にとっては1つの宝というか、大事にしていかなきゃいけないと思います。</p> <p>確かに経済的な問題もありますが、これは簡単に解決することは難しいもので、区教健の大きな役割としては、子どもの持っている、自信とか自己効力感、特に「やればできるんだ」というこの感覚を、もっと盛り上げられるように関わっていくことではないかと思います。</p> <p>「第2期末未来をつくる堺教育プラン」でも「家庭・地域とともに教育を推進する」を基本的方向性の1つにされています。家庭、地域、学校、行政がつながり連携して子どもの自己効力感を育てることが、平成29年度以降の課題ではないかと思います。それを具体化していくときに課題なのが、学校、教育委員会には専権事項というものがあり、なかなか区役所が関われない部分もあるということです。課題解決のために区と学校とがもう少し柔軟に連携していくということが重要ではないかと区教健で委員をさせていただいて感じました。</p> |
| <p>福永委員</p> | <p>私は、中区の宮園校区での朝食の取組はすごいなと思いました。これもまたつながりですよ。ぜひ美原区も前向きに考えたいなと思っています。</p> <p>市長が「おせっかい」と言われましたけど、おせっかいは本当に大事だと思います。私は自治会の役員をしまして、午後3時ごろになったら「今から子どもたちが帰ります」と、黄色い服を着て見まもり隊に行きます。そのとき見まもり隊の方が「今までは旗を振っているだけやったけど、『早寝、早起き、朝ごはん』と言っているのだから、『朝ごはん食べてきたか』とか言ってみようか」という声が出てきました。それと、通学路に防犯カメラをつけてもらって、すごく安心です。そういう意味では、地道におせっかい、関わっていくというのを市長が言っている分、自治会としても動いてきているのかと思いました。</p> <p>つながりで気になっているのは、自治会の加入率が下がっていることです。だから、新しいマンションなんかには自治会の役員さんが「こんな活動しています」「自治会費はいくらです」「こういうメリットがあります」ということを説明しに行って、それで入ってもらおうとしています。また、こども会の加入も減ってきているということで、やっぱり「子どもがつながることで、親も一緒に活動するので、いいことがありますよ」ということを説明して、加入者を増やしていくことが課題になっています。みんなで声かけして一緒にやっついこうという雰囲気、だんだん、どこも減ってきているなという中で、美原区ではしっかりとこれを受けとめて頑張っていきたいと思っています。</p> |
| <p>山中委員</p> | <p>お話をお伺いしていると、どこの区も同じような悩みを抱えておられるなと思います。臨床心理の立場から、人のエネルギーがどうやって回復されるか見ると、いい関係の人のコミュニケーションがあるかどうかなんですね。反対にストレスを与えるのも人間関係なので、いかにコミュニケーション能力が高い人がかかわっていただくかということはずごく大事だなと思います。</p> <p>そういう意味でいうと、各区それぞれ努力されているように、いかに大人が</p> |

| | |
|-------------|--|
| <p>中村委員</p> | <p>関わるかということが大事です。場所は区によってそれぞれ事情があると思うので、学校でやれるところがあれば地域会館でやるということもあると思います。それは利便性によって違ってくると思います。山野先生がおっしゃたように学校の仕事は増やさないで、場所として使えるところはいろいろあったほうが良いと思います。</p> <p>市長がおっしゃったように、今まで近所のおっちゃん、おばちゃんがおせっかいしてくれたのは、いろんなつながりが地域であって、小さいときから知っていて、子どもも知っている大人がたくさんいたのだと思うんですね。ただ、経済活動の中で、いろんな移動があり、マンションもどんどん建って違う地域から来られて自治会に入らないというようなこともあります。そうすると、やっぱり地域の中で知らない人が増えてきます。そうすると、トラブルが増えたりすることもあるかと思っています。堺区では、そういうところをどうにかしていきたいと思い、地域コーディネーターということで、地域の方をトラブル解決ぐらいまではできるかも、ということまでトレーニングをして、いろんな方の相談とか、あるいは関わりを持っていける人材の養成に努めていきたいと思っています。</p> <p>また、子どもが小さいと、講演会や講習会に参加しにくいので、子どもを預かる場所を設けて、またあるいは、子どもも参加できるようなイベントミックスの形でさまざまな取組を進めてまいりました。</p> <p>このほか、地域の学校にあるPTAが、どういう活動をされているのか、仕事が多く、役員のなり手もないということを知ったので、PTAの方のお話も聞かせていただいて、PTAにどういう支援ができるのかということも考えていきたいと思っています。今、子どもに声をかけると通報されることもあるので、なかなか気軽には声もかけられなくなっています。PTAやPTAのOBの方たちにいろんな活動をしていただきながら「地域の顔の見える化」をしていくと子どもに関わりやすくなるだろうなと思います。</p> <p>地域が一丸となつてというのは、なかなかないと思いますが、いろんな人同士がつながっていくということが非常に大事だと思っています。</p> <p>皆さんがおっしゃったことを南区の会議の中でも反映させたいと考えています。</p> <p>南区では、つながりの中でも親子のつながりというのを、考えておかないといけないと思っています。地域のつながりも大事ですが、その核となる親子のつながりが希薄であるという状況の中で、地域だけでその問題を解消していくのではなく親子も大事にしたいと考えております。</p> <p>南区でも、子育て世帯の保護者の方とお話をする機会を持ったんですけども、「どうしていいかわからない」とか、いわゆる貧困層ではなくても、問題は深いです。予防的に何かできることというのはたくさんあるはずで、そこ親子のつながりというところを考えますと、やはり区の特長というのが出てくるのではないかと思います。</p> <p>南区の特長としては緑道が多いというのがありますので、緑道を活用しながら親子で気軽に取り組めることを、具体的に提案していく必要があると思っています。公園があっても、どう活用していいかわからない保護者もいらっしゃいます。緑道という地域の環境をどうつながりづくりに生かしていけるのかも、これから大きな課題になってくるのではないかと思います。</p> <p>各区それぞれに特徴がありますので、置かれている環境をもう少し掘り起こしながら、具体的にこういうことができますよと提言していくことが必要だと思います。</p> |
|-------------|--|

| | |
|-------------|---|
| <p>宇野委員</p> | <p>子どもたちに、スマートフォンやゲームだけじゃなくて、クラブであるとかほかにも何か熱中することがあれば自信がつくんじゃないかと思います。</p> <p>また、東区は防災について地区で取り組んでおられるので、ジュニア防災リーダーの育成なんかを地域でしていければと思います。そうすれば、参加した中学生が「頑張った、よかった」と地域の方に褒めてもらう、うれしいので、また頑張ろうと思うというように、地域の方に褒めていただくことで子どもが育っていくのではないかと考えております。</p> <p>それから、きょうだいが少なくなってきた、赤ちゃんとふれあう機会もなかなかない中、東区では保健センターの協力のもと、中学校で赤ちゃんとふれあう「いのちの学習」というのをされています。私たち委員も見せていただきました。やんちゃな子も、赤ちゃんを抱くと全く表情が変わってうれしそうになるんです。赤ちゃんにふれたり、小さい子どもに「お兄ちゃん」「お姉ちゃん」と言ってもらうことで、素直になれたり、自分に自信が持てたりするんじゃないかと思います。保護者や地域の方の協力が必要ですが、ぜひ続けていってほしいなと考えています。</p> |
| <p>山野委員</p> | <p>バリエーションは多い方がいいし、選択肢はいろんなものがあつた方がいいと思います。その中で、なぜ学校かといったら、北区でどうつながりが起きているのかと見たときに、乳幼児期は保健センターを中心にしながら、必要な子どもが子育てサロンや子育て支援センターに紹介されたりしていますが、学校へ入学した途端それがなくなってしまいます。保健センターでは、全ての子どもを100%追いかけて全数把握をされているからできるんですね。ところが、就学すると全数把握しているところがなくなります。では、ほぼ全ての子どもたちを把握しているのはといえば、義務教育、それで学校というわけです。地域が学校に、もっと子どもに近づいてくるというのも1つじゃないかとも思います。もちろん、それぞれの校区でいろんなやり方があつていいじゃないかと思うので、北区でも学校ありきとは思っていないということです。</p> <p>また、貧困の話も、経済的に何か私たちができることはないですけど、経済的な状況で次の格差、経験の差から伸びる力に格差が生まれてはいけないと思います。子どもたちは平等で、同じ機会と同じ力を育成できることが必要だと思います。そうすると、もちろん貧困だけじゃなくて不登校やいじめなど、いろんな問題がありますが、貧困によって子どもが次のステップに、ほかの子どもと同じように進めないということが、堺市の中であつてはならないんじゃないかと思います。堺市の全ての子どもたちを視野に、家庭で用意することが難しければ、周りの大人が、地域でできる体験を作る、交流を作ることで子どもが健全に育つことを補うことができる。これができるのは地域ならではです。選択肢や機会を提供し、そこからどう伸びるのかは子どもの課題ですが、選択肢や機会を用意するのは大人の課題です。</p> <p>そういう意味で地域の力は非常に重要で、それぞれの区の特徴というのは、すごく勉強になったので、こうやって交流しながら参考にできればいいなと思いました。</p> |
| <p>楠委員</p> | <p>私たちは先ほど申し上げたような地域での取組を7月12日からスタートさせようとしています。これを継続的につなげていこうとすると、やはり予算が欲しいんですね。</p> <p>ボランティアさんだけに頼っているだけでは長続きしない、将来的には何かNPO法人にでもして、ということと連合自治会長さんと話をしているんです。けれども、取組が長続きするためには、例えばボランティアの安全管理のための保険があるとか、みんなに呼びかけやすいよう、何か市として応援をし</p> |

| | |
|--------------------|--|
| <p>事務局</p> | <p>ただいただけるとありがたいと思っております、大変僣越ですけど、今、市長にお願いをしたいなと思うところでございます。</p> <p>ありがとうございました。 貴重なご意見をいただいているところでございますが、そろそろ予定の時間となってまいりました。</p> |
| <p>竹山市長</p> | <p>子どもの生活に関する実態調査結果を見ると、さっき西川先生からもありましたように「自分の将来の夢や目標がある」とか「将来のために、今、頑張りたいと思う」とか「努力すれば、むくわれる」、さらに「自分に対する自信がある」と答えている子どもが多いです。この自己肯定感や自尊心を持ち、将来、社会に出てしっかりと歩み続けることができる子どもたちを、私たちは育てていかんとあかん、そして、最低限の勉強はしっかりと教えんとあかんということが、公教育の責務だと思います。</p> <p>それともう一つ、貧困、所得の格差にかかわらず、社会にはゆがんでいるところがあって、そこは正していかなければならないことです。例えば、所得階層が高いところでも、夕食を家族で一緒に食べているかということと食べていないです。そして、早寝しているかということ、所得階層の高い子どもの方が夜中まで起きています。経済的な問題だけではなく、こういった問題1つずつに対して、家族や社会や地域に向けて、地域と学校と行政が口やかましく繰り返し働きかけていくことが大事だと思います。</p> <p>今日は、皆さんのご意見を交わして、非常に勉強になりました。ありがとうございました。</p> |
| <p>■閉会 事務局</p> | <p>皆さん、どうもありがとうございました。 それでは、これもちまして、本日の意見交換会を終了いたします。</p> |